

10月16日（日）日本語スピーチコンテスト原稿（足利市民会館）

富士山に一度も登らぬバカ、二度登るバカ

関東学園大学

経済学科 2 年

金 承鑑（キム・スンイル）

みなさんは「富士山に一度も登らぬバカ、二度登るバカ」という言葉をごぞんじですか？私は最初どのような意味なのか分かりませんでしたが、友人から、「富士山は一生に一度は登らなければならない有名な山だが、とても大変で二度登るのはバカだ」という意味だと聞きました。それで私もバカと呼ばれるのを免れるために、今年の夏に富士登山(とざん)の計画を立てました。富士山は日本一高い山で、高さは **3776m** あります。ちなみに韓国で一番高い山は **1950m** です。

ある日本の本を見ると、有能な秘書は外国人の上司が日本に来た際、新幹線は富士山が見える窓側の座席で予約すると書いてありました。また、私の日本人の友達も、自分の家から富士山が見えると言って、自慢(じまん)げに写真を私に見せてくれました。このように、日本人にとって富士山は非常に特別な意味があるようです。

8月13日、5合目から登山を決行(けっこう)しました。早朝に出発したためまだ空は暗かったです。8月の東京は夏の暑さがピークになる時期ですが、その日は富士山に登るにはちょうどいい気候で、順調に6合目に到着することができました。

休憩した後、再出発しました。歩けば歩くほどテンションが高くなり、まるで雲の上に浮かんでいる気分でした。登山をしながら友人たちと、ふだんはなかなか出来ない話もしました。日本の友人から韓国に関して多くの質問を受け、あたかも韓国を代表しているような気分でした。

話をしていると、あっという間に7合目に到着しました。そして少しずつ体力の限界を感じながらも、8合目に到着をしました。友人のバックパックが重そうに見えたので、私は何をそんなに入れたのかと尋ねました。すると友人は、水、おにぎり、チョコレート、お菓子、そしてパプリカまで持ってきたと言いました。そこで私たちは、重量を減らすという言い訳で少しずつ食べてしまいました。そうして、9合目に到着しました。

みんな疲れていましたが、もう少しだから頑張ろうと励ましあいました。木もなく、草も

ない石ころ道を歩きました。だんだん雲に近づいている感じでした。私はこの時、高山病というものを初めて経験(けいけん)しました。ちょっと眠くて、めまいを感じました。少し登っては休み、また少し登っては休憩の繰り返しで、ようやく頂上近くの神社に到着しました。私たちは、最後の力を振り絞って頂上に向かい、最終的に **3776m** 地点に到着しました。そこには何もなく、巨大な火山の噴火口だけが見えました。

頂上では、疲れも忘れて素晴らしい景色を背景に写真をたくさん撮りました。多分一生に一度しか見られない光景だから、忘れない様にその場の雰囲気や脳裏に焼き付けました。そして、頂上で食べたカップラーメンとコーヒーは言葉にならないほど本当においしかったです。

今回の富士登山を通じて、人々と付き合う楽しさ、困難があるときに助け合う感謝の気持ち、国境や文化を超えた本当のコミュニケーションなど、様々な感情を経験しました。それは、日本一(にほんいち)の山を制覇(せいぱ)した喜びと達成感(たっせいかん)を上回る感動的なものでした。この経験は、日本の留学生生活にも、また韓国に帰国してからの生活にも生かしていきたいと思っています。